



北九州 福岡県玄界灘に突き出した糸島半島周辺は大陸・朝鮮半島に一番近い魏志倭人伝に記された伊都国の地で、大陸・朝鮮半島との交流がいち早く始まったところで、数々の遺跡が眠る地である。

この半島の付け根 福岡市の西端 元岡の丘陵地に九州大学が新しいキャンパスの建設を進めているが、ここから、縄文から江戸時代まで 特に古墳時代・古代の遺跡が数々出土している。(元岡・桑原遺跡群) なかでも、幾つかの谷の斜面から50を超える8世紀半ばの製鉄炉をはじめ、数々の製鉄遺跡が見つかり、この糸島半島一体我古代の大製鉄コンビナートである事がわかってきた。

当時、朝鮮半島 白村江の戦い(663)で唐・新羅連合軍に敗れた大和王権が、日本侵攻を恐れ、日本各地から防人を集めるとともに、北九州一体に防衛土塁・石垣・城を築いている。この元岡に当時の最先端の大型炉である鉄アレイ型製鉄炉が多数整然と建ち並ぶことから、日本防衛の frontline 基地北九州防備に必要な武器調達のための国家規模の大製鉄コンビナートを作ったと考えられている。

九州大学の元岡新キャンパス建設に伴う275ha(甲子園球場の約20倍)の広大な建設地周辺の1次調査(1997)から42次調査(2005)まで数々の発掘調査で古代の製鉄 生産遺構群や古代官衙遺構 古墳後期群集墓(約70基)や前方後円墳(7基)などが次々と出土した。これらの製鉄生産遺構群や数々の遺跡は記録保存の後 現在 建設進行中の九州大学新キャンパス用地として消えてしまう運命にあり、既に一部は消えてしまっているが、製鉄炉が建ち並ぶ第12次調査の谷や20次調査地点などの重要な製鉄遺跡をはじめ、幾つかの製鉄遺跡は将来の遺構整備・保存を前提に現在埋め戻し・盛土の保存がなされており、今後の整備が九州大学・福岡市で協議が進められている。

(現在はどの遺跡も柵と金網に囲まれた九州大建設用地の柵の中にあり、まだ公開整備されておらず、直接見る事は出来ない)



1. 元岡製鉄遺跡群が眠る九州大学 伊都新キャンパス walk (1) センター地区



6月10日の午後 大宰府の九州博物館を見に行った帰りに 九州自動車道を福岡へ引き返す。

トタ袋の中に元岡遺跡の資料を入れた心算が入っておらず、ただ「九大の元岡キャンパス」建設地である事だけが頼り。いつもの計画性のなさを家内に怒られながらの古代の大製鉄コンビナート 元岡遺跡見学 Walkである。博多港を眺めながら都市高速1号線を西へ ビックリするような高さから博多湾・博多の市街地を眺めながら10分ほどで都市部を抜け、丘陵地が続く市街地に入るといと志摩半島の山々の手前に 前方に山肌が大きく切り開かれた丘陵が見えてくる。大きく切り開かれた造成地 おそらく これが九州大学の新キャンパス。今宿インターチェンジから、北へ街中を北へ海岸に出たところから 九州大学新キャンパスの案内板を見つけ、左手丘陵地の方に入り、新しい市街地を抜けると田園地帯が広がり、その中を新しい道がまっすぐに正面の丘陵地に向かっている。



丘陵地の下に広がる田園地帯 東 今宿方面を眺める 2007. 6. 10.

丘陵地の丘の谷間に入って少し進むと左手に広大な丘陵地を切り開いた九州大学の新キャンパスの入口。すでに 工学部が移転していて、入口からまっすぐ丘陵地の上にメインロードが伸びているが、まだ建設途上でまだむき出しのままの千綿に工事用の金網が張られている。入口は駐車場と同じで自動開閉式のバーが降りていて、すぐ横に警備室。そして、すぐ横にビジターセンターの建物が建っていて、そこへ行って、登録しないと学内に立ち入れない。ビジターセンターがあるところが、最近の開かれた大学を目指す今風で、そこへ行くと学内見学のコースが用意されていて、案内もしてくれるという。大学も変わったものである。



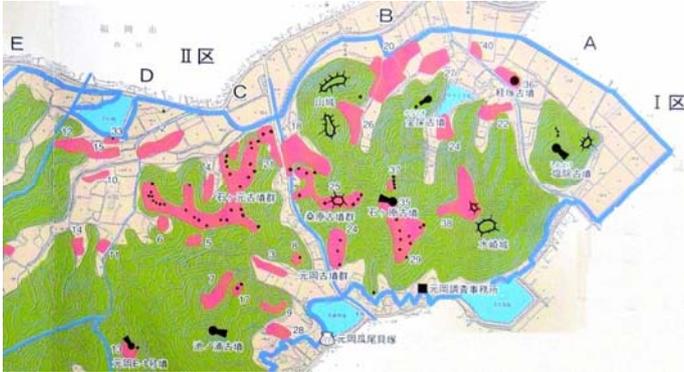
九州大学 元岡 新キャンパスの入口ゲート

ビジターセンターに行って 学内立ち入りの手続きと共に 製鉄遺跡の位置など教えてもらおうと思ったのですが、するのですが、「時折 同じように製鉄遺跡を訪ねられる人がいるのですが、学内の地図にも載っていないし、

良く解らない」とまったく要領を得ず。

ビジターセンターにパソコンが並んでいるのを見つけて、インターネット経由で元岡製鉄遺跡群(12次調査地点)の地図を出して、位置を確認。「その位置は 学内からは今は行けず、一旦外へ出て、周辺部から廻ってください」と聞いて、地図にマークをつけ、まず、学内の丘陵地の頂まで上がって、それから学外へ出て、丘陵地の周辺をめぐることにする。

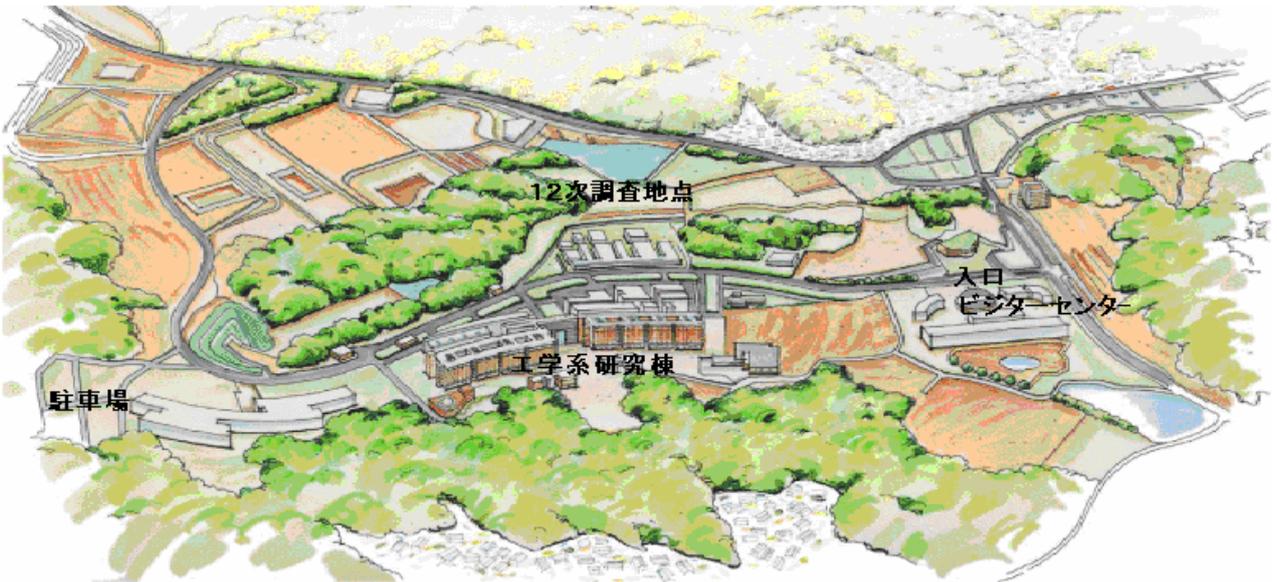
2. 古代の製鉄炉群遺構が出土した 12次調査地点・24次調査地点の製鉄遺跡 概要



次数・遺跡名	所在地	調査番号	調査年	面積㎡	主な時代	主な遺構	調査層	出土遺物	調査後
●桑原石ノ元古墳群 確認調査	●桑原石ノ元	9656	H8~H10		古墳	円墳	19		盛り土保存
●桑原金塚古墳 確認調査	●桑原字金塚	9657	H8		古墳	前方後円墳・割竹形木棺	1	青銅鏡	盛り土保存
●桑原石ノ原古墳 確認調査	●桑原石ノ原	9658	H8		古墳	前方後円墳(石ノ原古墳1次調査)	1	須恵器、土師器、鉄鏡	記録保存
元岡・桑原遺跡群 試掘	元岡	9602	H8		縄文~中世	遺跡の分布、範囲などを確認			
1次 ●桑原石ノ元古墳群	●桑原石ノ元	9656	H8		古墳	円墳	12	武器、馬具、銅土師器	21次と合わせて記録調査し、内16基を保存
2次	●桑原字林ノ元	9659	H8~H9	3,007	縄文~古代	溝、土溝、水田		縄文土師器、須恵器、土師器	記録保存
3次	●桑原字瓜尾	9763	H9~H11	3,500	縄文~古墳	縄文土師器、弥生土師器、円墳	1	縄文土師器、石鏡、土師器	記録保存
4次	●桑原石ノ元	9764	H9~H10	1,219	古代~中世	竪立柱建物跡、溝		土師器、中世陶磁器	記録保存
5次	●桑原石ノ元	9811	H10	2,500	古代	土溝、包含層		須恵器、土師器	記録保存
6次	●桑原石ノ元	9812	H10	2,880	古代	包含層、ピット		須恵器、土師器	記録保存
7次	●元岡字池ノ浦	9813	H10~H11	7,500	古墳~古代	竪立柱建物跡、池状遺構、製鉄炉		「壬寅年」木簡、硃、瓦	7,500㎡を造成法面部分に埋め戻し保存
8次 ●元岡古墳群M群	●元岡字大坂	9829	H10		古墳	円墳	1	須恵器、土師器	記録保存
9次	●元岡字池ノ浦	9851	H10	190	弥生~近世	竪穴住居跡、近世墓		弥生土師器、陶磁器、銅鏡、骨管	記録保存
10次	●元岡字柳ノ浦	9854	H11	1,336	古代~中世	包含層		石片、尖頭器、須恵器	記録保存
11次	●元岡字柳ノ浦	9855	H11	1,650	古墳~古代	土溝、土器り、溝		土師器、鉄製器、瓦	記録保存
12次	●桑原字雁形	9902	H11~H12	5,500	古代	製鉄炉		鉄滓、炉滓、木製品	盛り土保存
13次	●元岡字立通	9903	H11		古墳	円墳・前方後円墳	3	須恵器、土師器、ガラス玉、鉄鏡	記録保存
14次	●元岡字柳ノ浦	9904	H11	1,241	古代	包含層、ピット		土師器	記録保存
15次	●桑原字雁形	9923	H11	3,500	古代~中世	包含層、水田		須恵器、土師器、「解録」木簡	盛り土保存
16次	●桑原字牛切	9933	H11	1,224	古代	包含層		土師器	記録保存
17次 ●元岡古墳群B群	●元岡字池ノ浦	9934	H11		古墳	円墳	2	須恵器、土師器、ガラス玉、鉄鏡	記録保存
18次	●桑原字別府	9946	H11~H14	16,800	古墳~中世	竪立柱建物跡、池状遺構、製鉄炉、円墳	2	木簡、墨書土師器、田石器	記録保存
19次	●桑原字牛切	9947	H11	3,200	古代~中世	ピット、包含層		土師器	記録保存

次数・遺跡名	所在地	調査番号	調査年	面積㎡	主な時代	主な遺構	調査層	出土遺物	調査後
20次	●桑原字戸山	0001	H12~H15	20,130	古墳~古代	竪穴住居跡、竪立柱建物跡、製鉄炉		紀伊木簡、墨書土師器、漆車	15,000㎡を盛り土保存
21次	●桑原石ノ元	0002	H12	2,900	古墳	円墳	3	ガラス玉、鉄滓、瓦器	記録保存
22次	●桑原字牛坂	0033	H12	3,890	古代	竪立柱建物跡、製鉄炉、井戸		土師器、須恵器、鉄滓	記録保存
23次・確認調査	●元岡・桑原	0019	H12	9,106	7	炭焼き窯		炭化物	7,300㎡を埋め戻し保存地区に
24次	●桑原字金塚	0034	H12~H15	5,500	古墳~古代	竪穴住居跡、製鉄炉		鉄滓、炉滓	記録保存
25次 ●桑原古墳群A群	●元岡字石ノ原	0052	H12~H13		古墳	円墳	7	銅冶工具、須恵器、切子玉、鉄滓	記録保存
26次	●桑原字戸山	0110	H13	5,487	古墳~古代	竪穴住居跡、竪立柱建物跡、石組遺構	1	土師器、須恵器、鉄滓	盛り土保存3,442㎡
27次	●桑原字戸山	0153	H13~H14	4,495	古墳~古代	竪穴住居跡、溝、竪穴伊		土師器、須恵器、鉄滓	遺物位置変更と盛り土による保存1,600㎡
28次	●元岡字池ノ浦	0154	H14	2,214	古代~中世	自然道路、陸上溝、ピット		弥生土師器、須恵器、黒曜石、鉄滓	一部盛り土保存
29次	●元岡字石ノ原	0204	H14~H15		古墳	円墳	9	須恵器、土師器、鉄鏡	記録保存
30次	●桑原字牛切	0240	H14	2,450	古代	包含層、伏土土溝		鉄鏡	記録保存
31次	●桑原字柳ノ浦	0242	H14~H17	9,000	古墳~古代	瓦葺まり、竪立柱建物跡、竪穴伊、瓦葺跡		瓦、土師器、須恵器、鉄滓、子持石玉	調査中
32次	●元岡字宮原	0257	H15	1,700	古墳~古代	竪穴住居跡、溝、ピット		骨管、土師器、須恵器	調査予定
33次	●桑原字平川	0303	H15		古墳	円墳	1	須恵器	記録保存
34次	●元岡字石ノ原	0310	H15		古墳	円墳	3	須恵器	記録保存
35次	●元岡字石ノ原	0340	H15~H16		古墳	前方後円墳	1	須恵器、土師器	移築後元整備
36次 ●製鉄古墳	●桑原字深田	0341	H15~H16	2,220	古墳~近世	大型円墳、近世墓	1	埴輪馬具、須恵器、鉄刀	盛り土保存
37次	●元岡字石ノ原	0365	H15~H16		古墳	円墳	4	埴輪馬具、須恵器、鉄滓	記録保存
38次	●元岡字久保	0371	H16~H17	7,000	中世	中世山城(水城城)		土師器	記録保存
39次	●元岡知稚園	0404	H16	880	弥生	弥生時代の包含層		弥生土師器、石器	記録保存
40次	●桑原字深田	0410	H16	2,000	弥生~平安	包含層		須恵器、土師器、鉄滓	記録保存
41次	●元岡字草	0435	H16	1,500	弥生~平安	古代の包含層		須恵器、鉄滓	調査中
42次	●元岡字二又	0452	H16	9,000	弥生~古墳	弥生~古墳時代の包含層		木製馬具、弥生土師器、建築部材	調査中

福岡市教育委員会 九州大学新キャンパス地内 元岡・桑原遺跡群発掘調査パンフレットより 整理転記





九州大学伊都新キャンパス 2007. 6. 10.

入口からまっすぐ西に伸びる丘陵地の間をまっすぐ頂上部に向かってメインロードがつけられ、両側はすでに整備された造成地に大学の建物が建てられている。南の丘陵地には工学系研究棟の大きなビル群が建ち並び、北側の丘陵地は緑地の間に低層の建物があり、上部は崖になっていてこの丘陵地を取り囲むが、木々に覆われていて良く解らない。この北側の丘陵地の尾根筋には数多くの古墳群があり、32基が調査され、18基が残されているという。まだ、学内が工事だらけで、メイン道路から外れられないので、近づけない。工学系研究棟を抜けた丘陵地の頂上部が広く整地され、広場になっていて、広い駐車場が作られている。この頂上部から北に下る丘陵地は今整地の真っ最中で、これを降りてゆけば古代の製鉄炉が建ち並んで出土した12次調査地点の方へ行けそうであるが、ストップされていた。また崖の縁から北の斜面下をのぞくが、やっぱり、製鉄炉群が出土した12次調査地点は見えなかった。



九大キャンパス北側に沿う道路から東を眺める

製鉄炉群が出土した12次調査地点を眺めたかったのですが、学外へ出て、北側桑原の集落に出てT字路を西へ
 ちょうど谷を挟んで九大キャンパス沿いの道路から、12次調査時点を探す。南に工学系の研究棟が良く見えているが良く解らない。この道路から小さな谷を挟み南側が九大のキャンパスなのですが、ここでも
 工事用金網でキャンパス内へ入る道がすべてクローズされていて近づけない。



九大キャンパス北側より谷を挟んで 石ヶ元古墳群の丘 工学系研究棟

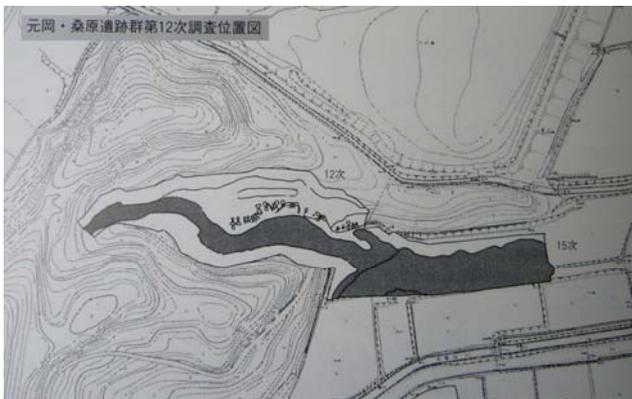
12次調査地点は道路沿いの池の向う側周辺なのですが、ちょうど西から伸びてきて東の谷に落ちる小さな丘に阻まれて見えない。この丘の向こう側南斜面から東の谷にかけてが、製鉄炉遺構が建ち並ぶ12次調査地点で、今は調査が終わって、完全に埋め戻され、保管処置がとられているというが、こちら側からは丘に阻まれ見えない。



九大北側より、建ち並ぶ製鉄炉遺構が出土した 12 次調査地点周辺を眺める 2007. 6. 10.



鉄アレイ両排滓型標準製鉄炉(23号製鉄炉)



8 世紀後半の製鉄炉が建ち並ぶ 12 次調査地点 製鉄遺跡群

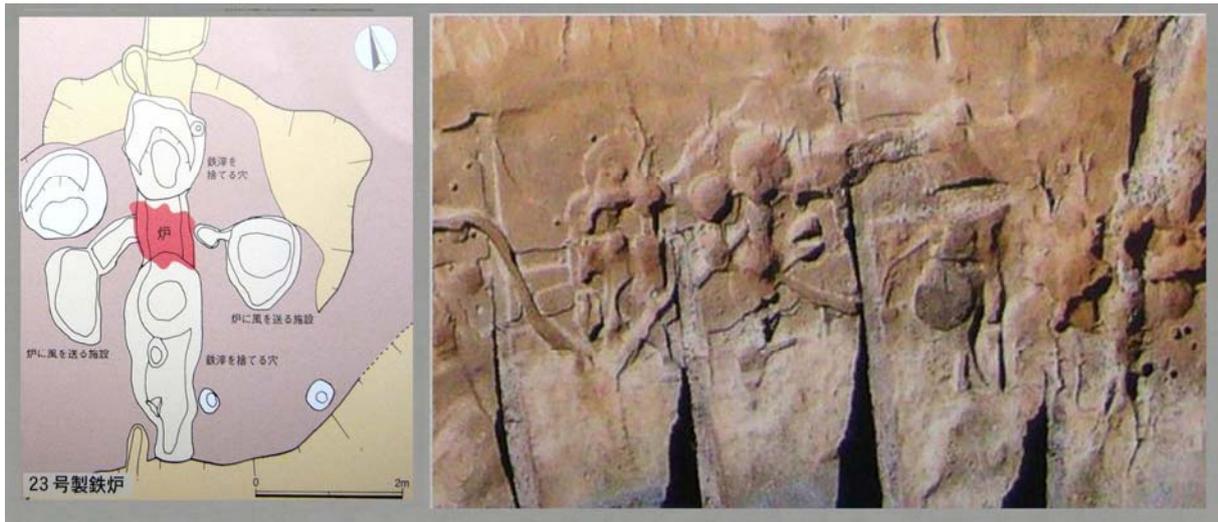
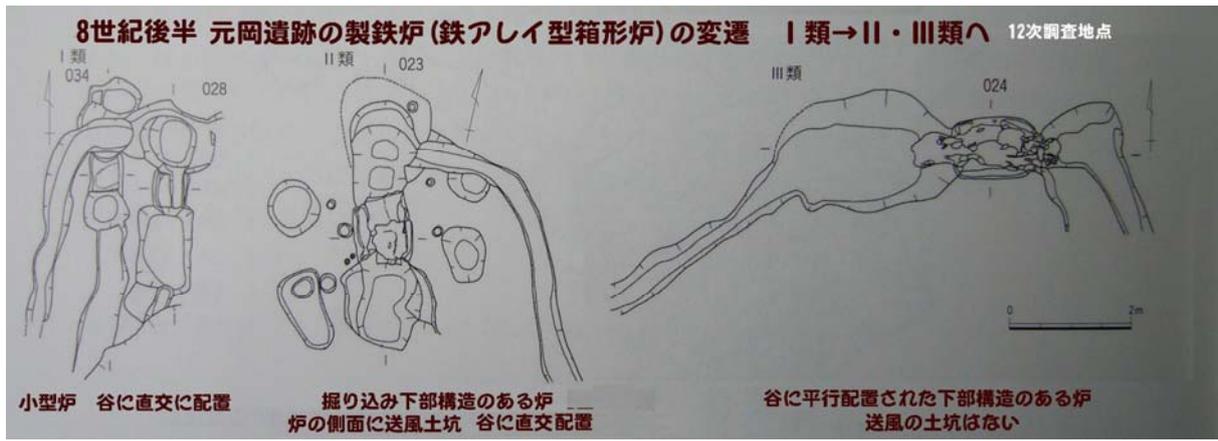
「鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」福岡市元岡・桑原遺跡の調査概要(菅波正人)より

3. 古代の製鉄炉群遺構が出土した 12 次調査地点・24 次調査地点の製鉄遺跡概要

(「鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」福岡市元岡・桑原遺跡の調査概要(菅波正人)より)

今治で開催されたシンポジウム資料「鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」の中にある「福岡市元岡・桑原遺跡の調査概要」(菅波正人)によると この 12 次調査地点では 東側に開口した幅 20~40m の谷部の北側斜面(上記した観察地点から見た丘側から言うと丘の南斜面)を平坦に造成して 東西約 60m に渡って製鉄炉が 27 基(谷に直交するもの 22 基 平行するもの 5 基)が建ち並び谷は排滓場になっていて、鉄滓が埋め尽くされていたという。古代製鉄 鉄生産の大遺構である。製鉄炉は大和王権が畿内で育んだ標準タイプ 両側に排滓坑がつく箱形炉(鉄アレイ型箱形炉)で 炉床規模は幅 30~80cm 長さ 40~130cm で 炉の側面に送風に関わると考えられる土坑があるものとなないものの炉があり、次に示す I のタイプの製鉄炉から II・III のタイプの製鉄炉に変遷し

たとえられている。



12次調査地点より出土した古代の製鉄炉群遺構

出土遺物は土器類(須恵器・土師器等)・製鉄関連遺物(炉壁・鞆羽口・鉄滓等)・木製品(火鑽具・送風管・書き出し棒など)があり、製鉄炉が建ち並ぶ谷には大量の鉄滓・壊された炉壁が破棄されている。

出土した炉壁には送風孔が複数付いており、谷の底からは半割りにした木の内面を削り貫き、あわせて作った径8~10cm 長さ約60cmの片端がいずれも焦げた管 送風管が出土している。箱形炉IIの送風土坑の遺構と炉の間が約60cmであるので、これらの送風管は箱形炉IIに伴うものと思われる。また、土製の送風管も少数であるが出土している。

土器類の出土数は少ないが、それぞれの遺構からの土器類から、製鉄遺構の操業時期は8世紀中頃から後半で9世紀には終わると考えられている。

また、24次調査地点からは大型化したII類の炉が7基と大量の鉄滓が出土している。



■24次調査地点の製鉄遺跡の製鉄炉 概要

今回は調査地点は近づけなかったが、現在は埋め戻され盛土保管されているというので、今後、九大キャンパスの遺跡整備計画の中で、また 整備されて公開されるものと楽しみにしている。

3. 元岡製鉄遺跡群が眠る九州大学 伊都新キャンパス walk (2) 東地区 と総括

12次調査地点北側の道を桑原集落の方へ戻り、九大キャンパス入口へのT字路を曲がらず、そのまま桑原集落を抜けて、もう一つ大きな製鉄生産遺構が出土した東地区(20次・24次調査地点)の方へ行くが、こちら側もずっと金網が張り巡らされ、九大キャンパスに近づけない。



九大キャンパスの東端 24次調査地点周辺から桑原集落方面(北)を見る 2007. 6. 10.

桑原集落から九大キャンパスの丘陵地を眺めながら東へ進み、丘陵地の東端のところで、道を折れると、田畑の中 正面に見える丘陵地の東端と道を挟んで小高い丘(元岡塩除古墳)の間を抜けている。この古墳に差しかかる手前に整地工事場跡と思われる雑草で覆われた広場があり、「九大キャンパス 第II工区その3」の看板が付けられている。この周辺部の九大キャンパス内が 製鉄遺構が出土した 24次調査地点である。ここに車を止めて、この地点がながめられるか、柵の中や周辺を探してみるが、よくわからない。



九大キャンパス第II工区その3の看板があるキャンパス東端周辺

道の反対側の田圃の中に青いグラウンドシートがかけられた所が見える。多分発掘調査中の場所だろうが、製鉄炉がある場所ではなさそう。反対に この広場の南側に隣接する丘陵地の端にロープが張られ、赤茶けた土が露出した発掘場所が見える。



とにかく、丘の上に登ると、斜面上に幾つもの発掘された土坑や溝が見え、鉄錆の赤茶けた色が広がる場所も見えるが、何の遺構か良く解らない。24次調査地点の周辺ですが、そこはもっと丘陵地の奥である。残念ながら きっちりした遺跡図持ち合わせず、よくわからず。



22次調査地点に隣接した丘の発掘中の遺跡 詳細は不明 2007. 6. 10.

北から東へ広がる田園と桑原集落が良く見える小さな尾根筋の端の高台の上の傾斜地に 一部 青いグラウンドシートで覆われているが、古墳や墓ではなさそうで、 斜面の頂上部と下に 2条の溝があり、 炉跡と思われる長方形の赤茶けた窪地がところどころに出土していて、製鉄関係遺跡のように思うのですが、総計には結論できない(後で資料を見ると 22次調査地点 掘立て柱建物跡や製鉄炉などが出土した地点に隣接した場所のようだ)

4. 総括



丘陵地の下に広がる田園地帯 東 今宿方面を眺める 2007. 6. 10.

8世紀後半から9世紀にかけて、大和王権が大陸や朝鮮半島からの侵略におびえながら構築した九州の砦。それを支えた鉄の大供給基地が糸島半島の根元にある元岡・桑原製鉄遺跡。古代の国家的事業である大製鉄コンビナートであった。また、北には東北 蝦夷への対応のため、常陸 金沢製鉄遺跡群の大製鉄遺跡群がある。

一度 是非 自分の眼で確かめたかった元岡製鉄遺跡群 残念ながら 製鉄の製鉄遺構そのものは見られませんでした。場所が確認され、また 規模の大きさが実感されて満足でした。

九州大学の移転整備計画は 工学系の移転が始まった

ばかりで、まだまだ先まで続きます。この長期にわたる移転工事計画の中で、この貴重な製鉄遺跡群が 忘れ去られることなく 早い機会に きっちりとした遺跡の保存と公開がなされることを期待しながら、元岡の丘陵地を後にしました。

ついでながら、この大きな古代製鉄コンビナートを含む古代の大遺跡群については 未だに 断片的で レビューすら公開されていません。 まとまったものはなく、その中心にある九州大学でもほとんど中身が知られていないのには驚きました。研究者間の価値にとどまることなく、早く 一般の眼に触れられる資料・レビューが早くまとめられ、一般にも公開することもお願ひしたいものです。

2007. 6. 10. 元岡遺跡の丘陵地から東へ 戻りつつ

Mutsu Nakanishi



【 参考資料 】

1. 「鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」 愛媛大学考古学研究室・今治市教育委員会
2. 「桑原遺跡の調査概要」福岡市博物館 菅波正人
(鉄と古代国家 ～今治に刻まれた鉄の歴史～」 高橋佐夜ノ谷II遺跡の類例より
3. 九州大学新キャンパス地内 元岡・桑原遺跡群発掘調査パンフレット 福岡市教育委員会 文化財部